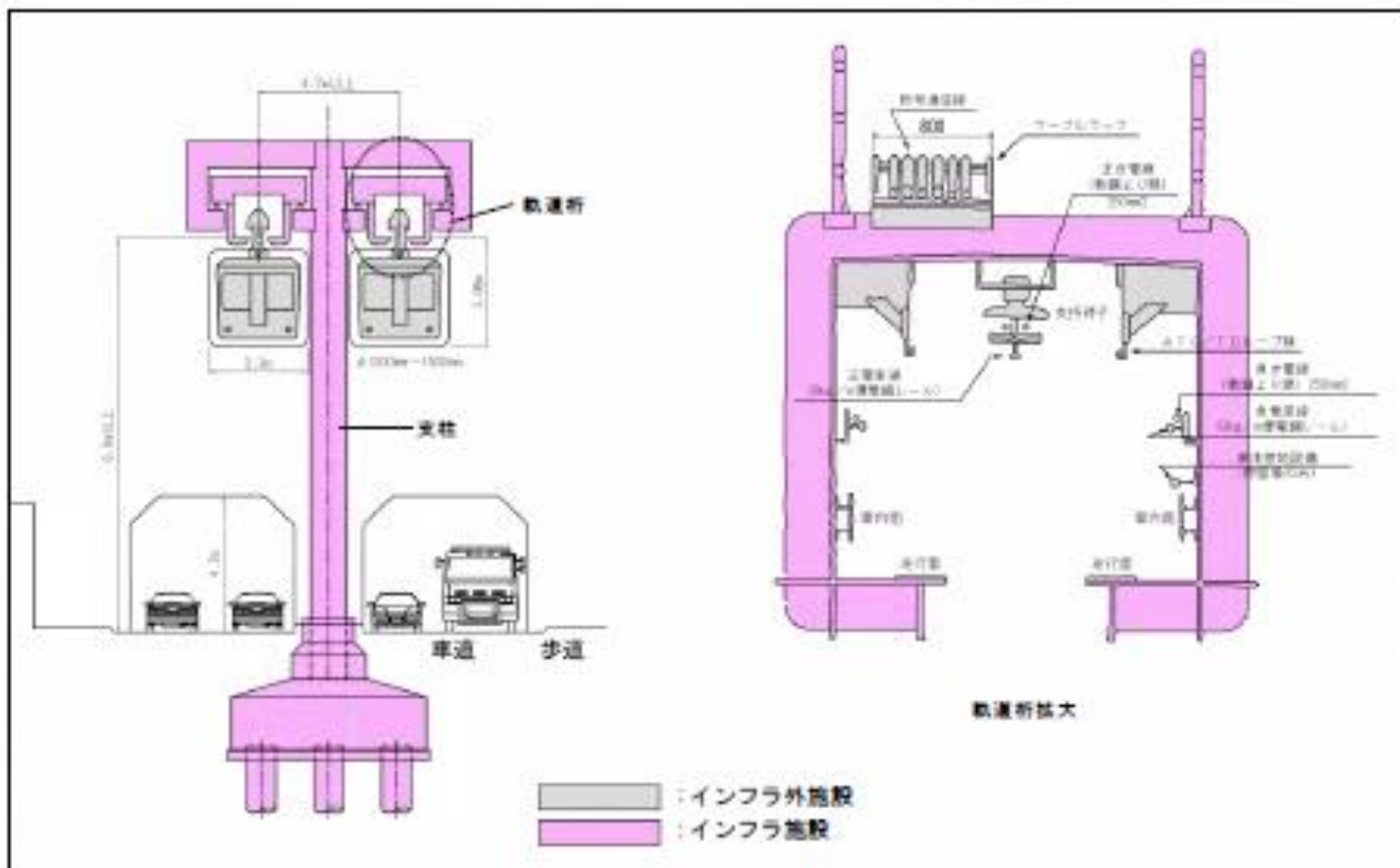


持続可能な公共交通の実現に向けた
「千葉都市モノレールの維持管理方針」
～安全・安定輸送の継続と変化する社会環境への対応～

(概要版)

千葉都市モノレールの維持管理方針は、モノレール事業の現状や課題などをふまえ、モノレール事業の安全・安心と持続性を確保するとともに、利用者や地域から求められる多種多様なニーズや環境といった今日的な課題に対応していくための施設・設備の整備方針や利用促進策等について、市（都市局・建設局）とモノレール会社における基本的な考え方や方向性を明らかにすることを目的とする。

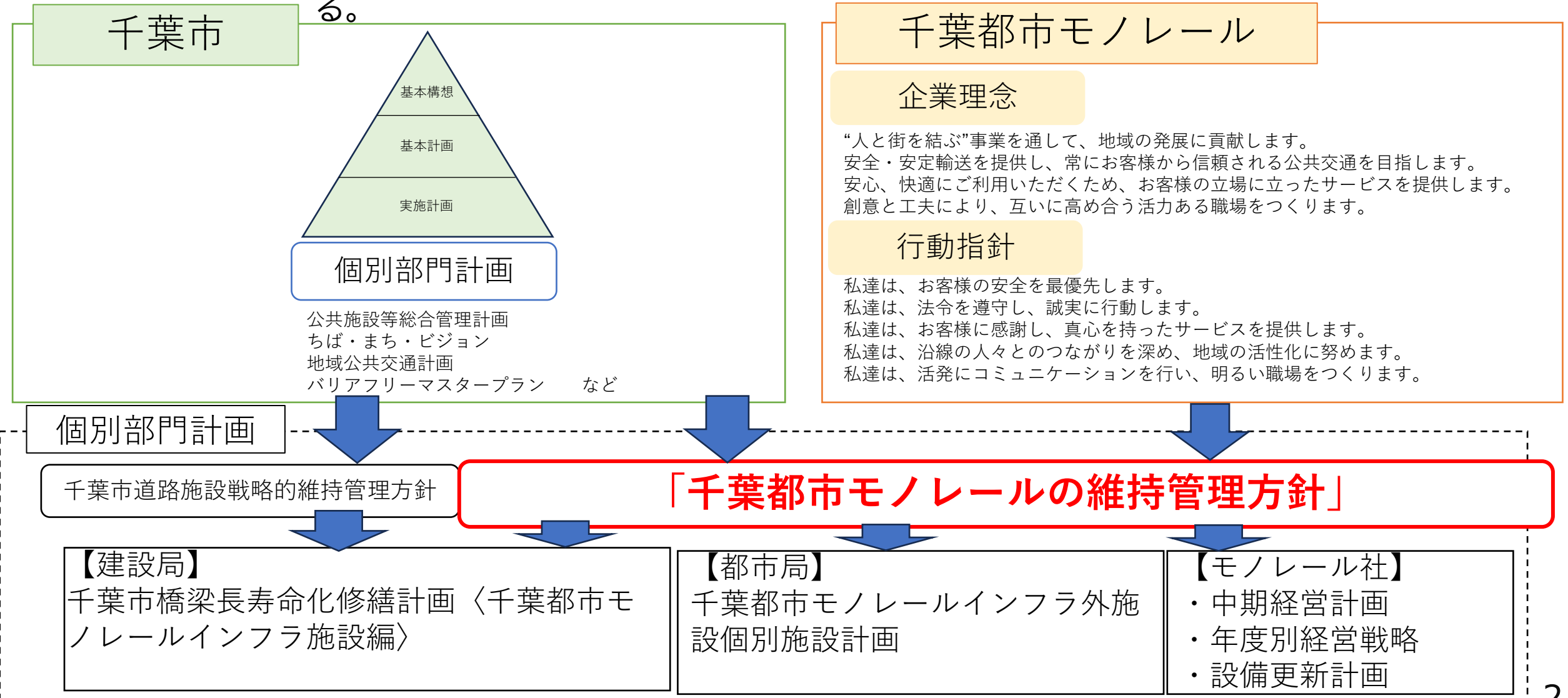
モノレール事業の全ての施設・設備
を対象とする。



千葉都市モノレールの維持管理方針（概要版）

3. 位置づけ

本計画は、市の既存の個別部門計画（ちば・まち・ビジョン、地域公共交通計画、バリアフリーマスタープラン等）やモノレール社の企業理念と整合を図り、方向性を示したものである。

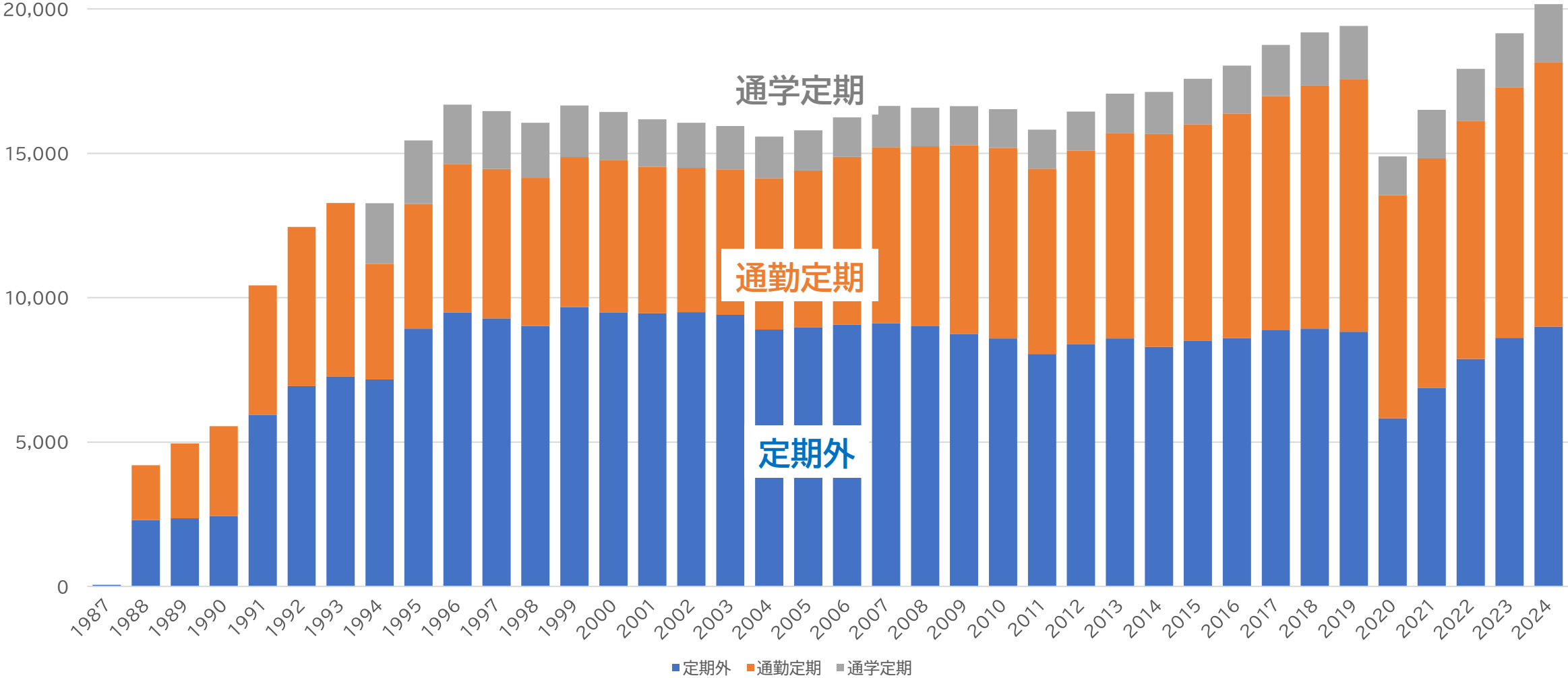


4. 現状

令和6年度は、年間輸送人員が約2,000万人、一日乗車人員が55,000人と過去最高を記録した。

単位：千人

1999/H11 全線開業
2010/H22 PASMO導入
2016/H28 千葉駅連絡通路 開通
2020/R2(3月) コロナ緊急事態宣言



5. 維持管理に係る課題

（１）施設の老朽化と安全・安定輸送の維持

多くの施設が更新時期を迎え、また老朽化が進行し、安全な輸送を確保し続けるための更新・修繕が不可欠

（２）人口減少社会の到来

長期的な需要減少が見込まれる中でも確実に収益を上げていかなければならない

（３）新たな社会的ニーズへの対応

駅舎のバリアフリー化、環境負荷低減のための脱炭素化、利便性向上のためのキャッシュレス化など、時代の要請に応えるための投資が必要

（４）コストの上昇

人件費や資機材の高騰に加え、公共交通機関としての使命から、運行を止めずに営業を続けながら工事を行う必要があり、費用の増大が避けられない。

これらの複合的な要因により、大きな財政的課題と運営上の課題に直面しており、財源確保と、より適切な施設の維持管理・更新及び持続可能な事業運営に向けた取り組みが必要である。

6. 課題解決に向けた今後の方向性

（１）計画的・一体的な修繕の実施

- ・インフラ部・インフラ外部で構成される施設を、より効率的に更新できるよう、計画的かつ一体的な修繕を実施する。

（２）まちづくりとの連携した沿線の魅力向上と利用者確保

- ・沿線における定住人口の維持・確保に加え、観光やイベント等を通じた交流人口の拡大を目指す。
- ・モノレールを「まちづくりの社会インフラ」として活用し、沿線の資産価値の維持やコンパクトなまちづくりを推進していく。
- ・交通結節点機能の強化や他交通機関との連携を推進する。
→ これらにより、利便性と沿線魅力を向上させ、将来にわたる利用者を確保する。

（３）新たな社会ニーズへの対応

- ・バリアフリー化や脱炭素化といった社会的ニーズに対応するための更新・改良投資を実施

（４）適切な長寿命化対策と効率化の推進

- ・施設ごとの特徴や状態に応じた適切な長寿命化対策を講じるとともに、既存施設を維持しつつ、適切な規模への見直しを検討する。その一環として、千葉変電所のダウンサイジングを実施する。
- ・DXによる業務効率化を推進することでコスト削減を目指す。

路線の維持を前提としつつ、市と会社が一体となって長寿命化対策、DX推進による効率化、沿線価値向上による利用者確保に取り組み、事業の持続可能性を確保する必要がある。

7. 維持管理方針

千葉市を支える基幹交通機関として、モノレールを将来にわたって「安全・安心」に利用できるように、以下の2点を基本方針として掲げ、適切な施設の維持管理・更新と持続可能な事業運営を推進します。

1. 適切な施設の維持管理と更新

モノレールの安全性と信頼性を将来にわたり確保するため、計画的な施設の長寿命化を推進します。同時に、変化する社会環境へ柔軟に対応すべく、バリアフリー化の推進や省CO2化も実施します。さらに、AI、ICTの活用や新しいシステムの導入により、利便性及び安全性の更なる向上を図ります。

2. 持続可能な事業運営

安全・安定輸送の質を高め、モノレールインフラを活用した施策展開により、収入確保に努めます。これらの取組みを通じて沿線地域の価値向上に貢献し、他の交通機関との結節点をシームレスに連携させることで、全ての利用者へストレスフリーな移動の提供を目指します。人口減少社会であっても選ばれる交通機関となることで、持続可能な事業運営を実現します。

適切な施設の維持管理と更新の方向性

方向性 1	安全・安定輸送の維持
	予防保全的な施設維持により安全性や信頼性を将来にわたり確保
	長寿命化や強靱化対策、リスク管理の検討
方向性 2	誰もが利用しやすい施設・環境整備
	千葉市バリアフリーマスタープランに即したバリアフリー化の推進やICT技術を駆使した利便性、安全性の向上
	防犯設備の高機能化等によるセキュリティ強化
方向性 3	省エネルギー性や維持管理面に優れた施設への転換
	施設のライフサイクル全体での省CO2化推進
	高効率な設備類への転換、回生電力の活用
	再エネ設備の導入、再エネ由来電力の活用
	点検履歴の蓄積等によるライフサイクルコストをふまえた管理の最適化
方向性 4	モノレールインフラのストック効果の最大化
	モノレールインフラ（駅舎等）の活用
	未利用地や空間をまちづくりに賢く活用
	災害拠点施設との連携による防災機能強化

持続可能な事業運営の方向性

方向性 1	安全・安定輸送の継続
	人的要因による責任事故ゼロの継続
	頻発化・激甚化する災害への対応力強化
	誰でも安心して利用できる交通機関としての環境づくり
方向性 2	沿線地域への貢献（共生・価値創造）
	「選ばれる」公共交通であるための接遇・サービス向上
	インバウンド旅客への積極的アプローチによる需要喚起
	沿線地域との連携による付加価値の創造
方向性 3	変化する社会環境への対応力強化
	付帯事業の育成による増収施策の推進
	経営体質の強化
	新たな運賃体系の検討
	お客様サービスの向上
	他の公共交通との連携・共生による利用圏域拡大
	「千葉モノファン」を増やす積極的な情報発信